

学校長 殿  
理科担当主任教諭各位 殿

2022 年（令和 4）年度

## 公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会研究助成募集要項



TDK創立者  
齋藤憲三先生

（明治31年2月11日～昭和45年10月31日）



TDK育ての親・当財団創設者  
山崎貞一先生

（明治42年8月5日～平成10年11月20日）

### 公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会について

齋藤憲三先生（秋田県にかほ市平沢出身、TDK株式会社創立者）は、生涯科学技術の振興に努められ、その研究と実践に情熱を傾けて多大の功績を残されました。当公益財団法人は先生の高風を敬慕し、その事蹟を顕彰するとともにその意志を継ぎ、故前理事長山崎貞一（TDK株式会社2代目社長）が中心となって昭和46年に設立されたものであります。

齋藤憲三先生の終生の念願であった科学技術の向上発展のためには、まず、少年時代から“科学する心”の芽を育成することが最も効果のあるものと考え、当公益財団法人はその事業の一つとして、秋田県の科学教育振興のため、毎年県内の小・中・高等学校・特別支援学校が推進する児童・生徒のグループ研究と教員の個人指導に対して助成金を贈呈しております。

2022（令和4）年度グループ研究の助成校及び教員の個人研究助成を別記要項により募集いたしますので、当公益財団法人の趣旨をご理解の上、是非応募活用下さるようご案内申し上げます。

2022（令和4）年4月

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

# 目 次

---

グループ研究助成募集要項 .....	1
“グループ研究”助成申込書 .....	4
助成研究報告書（グループ研究用） .....	7
グループ研究報告書要領 .....	8
研究報告書見本 .....	9
個人研究助成募集要項 .....	10
“個人研究”助成申込書 .....	11
助成研究報告書（個人研究用） .....	14
指導者の皆様へ .....	15
令和元年度 研究助成金助成校一覧 .....	18
令和2年度 研究助成金助成校一覧 .....	21
令和3年度 研究助成金助成校一覧 .....	24

[別表] 研究助成状況①（昭和47年度～平成15年度）  
研究助成状況②（平成16年度～令和3年度）



# グループ研究助成募集要項

## 1. 応募資格

秋田県内の国公立小・中・高等学校（特別支援学校・定時制校等を含む）で児童・生徒の科学・技術する心の育成に、意欲的に取り組む学校であり、本年度のテーマを持って、研究活動をしようにとする児童・生徒のグループ。

## 2. 研究課題

自然科学等理科に係わる具体的なテーマであること。（理科の学習指導要項にあげられている内容そのものの研究よりも、それらに関連する問題を、更に深く掘り下げるとか、あるいは、郷土の自然に関する研究テーマ等がのぞましい。）

但し、高校の場合は、工業・農業・水産・家庭等に関する専門分野の研究テーマでもよい。

## 3. 助成研究の期間

助成研究の期間は、毎年4月1日から翌年1月19日までとします。

なお、継続的な課題研究であっても、1か年を区分とします。

## 4. 応募方法

当研究助成を希望される学校は、当会の、所定の応募用紙により、期限までに、申込み手続きをして下さい。（同一校からの応募は2件の場合は、必ずクラブ名を変えて下さい）

申込み・・・・・・・・・・・・・・・・別紙、様式－1①～③

(1) 期 限 5月10日(火) 必着のこと

(2) 記入内容

- ① 学校の概要と研究グループ及び研究形態
- ② 研究課題にその趣旨（簡潔に）
- ③ 助成金の使途内訳（具体的に）
- ④ 具体的な研究実施計画

(3) 応募書類の提出部数 顕彰会事務局用 1部 + 選考委員配布用 12部 = 計 13部

## 5. 助成校の選定と通知

当会の選考委員会で、審査の上、決定する。

その結果は、速やかに学校長宛に通知します。（5月下旬）

## 6. 助成校数及び助成金額

小 学 校	1 件当り	5 万円まで	8 件(校)程度
中 学 校	”	10 万円まで	22 件(校)程度
高 等 学 校	”	13 万円まで	30 件(校)程度
特別支援学校	”	(小・中・高等学校に準ずる)	

本研究助成金は、債券（国債、社債等）の運用利息の収入で運営していますが、日本銀行の異次元の金融緩和政策及びマイナス金利導入の影響を受け、当顕彰会の収入が減少する非常に厳しい環境下にあります。

齋藤憲三先生の遺訓「科学する心」を後世に継承して行くために、今後金融市場が正常化するまでは、収入に見合った事業運営のため助成事業が縮小しますが、今まで同様に秋田県内の小・中・高校の理科教育に貢献して参りますのでご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

## 7. 助成金の使途

助成金は、研究課題の研究過程において、必要な器具、参考資料、\*交通費等諸経費に充当のこと。  
\*交通費は原則調査研究に関わる旅費で、学会発表会・研究発表会とは区別下さい。

## 8. 研究結果の報告

助成研究は、翌年1月19日(休)までに、下記様式による研究報告書を、当会へ提出する。

継続研究の場合は、当年度1か年の研究報告書を提出する。

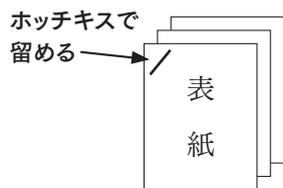
1) 表紙（別紙、様式-2①）には、下記内容を明記し、次の報告概要を付して提出する。

- (1) 研究課題
- (2) 学校名とクラブ名及び研究形態
- (3) 指導教諭名
- (4) クラブ生徒氏名及び写真貼付
- (5) 学校長氏名及び学校長印

2) 報告概要（別紙、様式-2②）は研究報告書要領（P 8）により、下記事項を作成する。

- (1) 研究の動機、目的またはねらい
- (2) 研究のすすめ方、実施の方法及び経過内容
- (3) 研究成果とまとめ
- (4) 反省と今後の課題
- (5) その他付記
  - ① 参考文献
  - ② 他団体への発表実績及び受賞状況
- (6) 会計報告（領収書は不要）

### 3) 報告書の綴込み方法



指定の表紙（様式-2①）をつけて、**最後尾のページに会計報告を入れて下さい。**

報告書をファイル及びケースに入れないうご注意ください。

### 4) 研究報告書の提出部数 顕彰会事務局用 1 部 + 選考委員配布用 12 部 = 計 13 部 (下記 注：1 参照のこと)

注：1. 事務局用及び選考委員への報告書に用いた写真・図表・スケッチ・地図等は、印刷製本ができる程度の正確さ・鮮明さ（可能な限りカラーコピー推奨）を有するものとしてします。

2. 課題研究を中止とするときは、当会に通知し、助成金の返還を要することに留意して下さい。

## 9. 特 典

優秀な助成校に対しては、後日厳選の上、齋藤憲三・山崎貞一奨励賞として、賞状と共に、奨励金並びに記念の楯を贈り表彰する。

## 10. 参考（研究助成プロセス）

- |    |                 |  |
|----|-----------------|--|
| 1) | 研究助成校募集期間       | 4月4日～5月10日   |
| 2) | 研究助成申込書類提出期限    | <b>5月10日(火) 必着厳守のこと</b>  |
| 3) | 助成の決定、助成金交付     | ・助成の決定は5月下旬<br>・助成金交付は、研究助成認定証交付式<br>(6月16日(木) 於 ANAクラウンプラザホテル<br>旧秋田ビューホテル) |
| 4) | 助成研究の現地視察指導     | 9月1日～9日  |
| 5) | 助成研究報告書提出期限     | 令和5年1月19日(木)   |
| 6) | 齋藤憲三・山崎貞一奨励賞の選考 | 令和5年2月14日(火)   |
| 7) | 齋藤憲三・山崎貞一奨励賞の授賞 | 令和5年3月16日(木)<br>齋藤憲三・山崎貞一奨励賞授賞式  |

(於 ANAクラウンプラザホテル)

[申込先]

〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字立沢 200 番地

T D K株式会社 にかほ工場北サイト

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会事務局 小幡正則

T E L (0184) 35-6543 又は35-6515

F A X (0184) 35-6543 又は35-6586

ホームページアドレス：<http://www.saito-kenzo.jp>

メールアドレス：[info@saito-kenzo.jp](mailto:info@saito-kenzo.jp)

受付日	令和 年 月 日	番号	No.
-----	----------	----	-----

採	否
---	---

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

理事長 齋藤修一 殿

## 公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 “グループ研究” 助成申込書

令和 年 月 日提出

(1) 学校の概要と研究グループ				
学 校 名				
所 在 地	〒 _____  TEL No. FAX No.			
児 童 生 徒 数		学級数		教員数
研究グループ名			グループ 構成数	年生 人
研究形態 ( <input checked="" type="checkbox"/> チェックを入れて下さい)	<input type="checkbox"/> 授業 <input type="checkbox"/> 課外 <input type="checkbox"/> その他 ( )			年生 人
指 導 教 員	氏 名	専攻科目	校務分掌	担当クラブ
	(1)			
	(2)			
	(3)			
貴会の研究助成募集要項に基づき申込みます				
学校長氏名 _____				<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;">             学校長 印           </div>

## (2) 研究課題とその要旨

## イ. 研究課題

## ロ. 研究課題の要旨（動機、ねらい、目的等）

(3) 助成金の使途内訳 （具体的に）

助成申請額 万円

(4) 具体的研究実施計画

令和 4 年度

公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 助成研究報告書 (グループ研究用)

令和 年 月 日提出

研究課題：

[新規・継続]

<p>学校名及び クラブ名：</p> <hr/> <p>研究形態： <small>(☑チェックを 入れて下さい)</small></p> <p><input type="checkbox"/> 授業 <input type="checkbox"/> 課外 <input type="checkbox"/> その他 ( )</p> <hr/> <p>指導教諭：</p> <hr/> <p>生徒氏名： (代表) ( 年生)</p> <hr/> <p>( 年生) ( 年生)</p>	<p>指導の先生と部員メンバーの 写真を貼付下さい</p>
---	-----------------------------------

<p>貴会より助成を受けた上記研究の成果を報告します</p>  <p style="text-align: center;">_____ 学校長氏名</p> <p>公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会</p> <p style="text-align: center;">理事長 齋藤 修 一 殿</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>学校長 印</p> </div>
---	--

## — グループ研究報告書要領 —

### 1. 助成研究報告書は、次の要領で作成し、表紙（様式－2①）に付して提出する。

- (1) 用紙は A 4 サイズで、縦長、横書きとする。パソコン、ワープロ可。  
A－4 版手書きの場合必ずしも 400 字でなくてもよい。
- (2) 枚数は、文字、図表、写真類を含め 20 ページ以内に収まる枚数とする。  
(1 ページには、横 23 字×縦 37 行の 2 段組で 1,702 字入る。—— 見本添付 (P 9)  
従って、図表、写真類を含め、1,702 × 20 ページ以内に収めてください。)
- (3) 図、グラフ、コンピュータのプリント、写真類はできるだけ精選し、鮮明（可能な限りカラーコピー推奨）なものを用いる。
- (4) 指導された先生と部員メンバーの写真を表紙に貼付下さい。

### 2. 報告書の内容は、概ね、つぎの項目をもって構成する。

但し、必要に応じ、各項目の中を、適宜細分してかまわない。

- (1) 研究の動機、目的又はねらい（研究テーマの設定した事由と目的又は、ねらい、なお、継続テーマの報告のときは、前年までの研究概要も、要領よく記入する。）
- (2) 研究の進め方、実施の方法及び経過内容（どんな研究のやり方や考え方をもって、この課題に取組み推進しようとしたかを記し、研究の構想に添って、進められた具体的研究の方法、プロセスとその結果を、順を追って記す。又、必要に応じて図示、写示、項目を細分して説明する。）
- (3) 研究成果とまとめ（まとめとして、研究の完了結果と帰結、考察の結びを記す。）
- (4) 反省と今後の課題（研究の課題を振り返って、設定課題に対する成果が、十分に満足出来るものであったかどうかの反省と、残された課題や、更に、追求する為の課題につき記す。）
- (5) イ. 参考文献（研究を推進するに当たって、参考に付した文献を明記する。）  
ロ. 研究発表実績及び受賞可否（当該研究につき、他団体に報告、発表、受賞の実績がある場合、その発表形態、時期、団体名、入賞結果を列記する。）
- (6) 会計報告（具体的に、支出の項目と金額を列記する。領収書は不要。）

以上

# 研究報告書見本

23字×37行×2段=1,702字

← 23字 →

← 23字 →

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	

# 個人研究助成募集要項

## 1. 応募資格

秋田県内の小・中・高等学校（特別支援学校・定時制校・高専等を含む）の理科学担当教育で、その職にあり、自然科学等（高校教員の場合は、工業・農業・水産・家庭等に関する専門分野の研究でもよい）に関する研究をしている者。又、意欲的にしようとしている者。

## 2. 研究課題

自然科学等に関する研究テーマであること。

但し、自己の資質を高め、以後の教育指導に役立つものであること。

## 3. 助成研究期間

原則として、翌年1月19日(木)までとする。

但し、研究課題の内容によっては、2～3年継続助成することもある。

## 4. 応募方法

当会所定の応募用紙（別紙様式－1 A～C）、所定事項を記入の上、申込みを行う。

その他応募方法は、グループ研究募集要項に同じ。

## 5. 助成研究者の選定と通知

グループ研究の選定と通知に同じ。

## 6. 助成件数と助成金額

1) 助成件数・・・・・・・・・・ 3～5件

2) 助成金額・・・・・・・・・・ 1件当り 8万円まで

## 7. 助成金の使途

グループ研究の使途に同じ。

## 8. 研究結果の報告

研究結果の報告は、(様式－2 A) の表紙に、報告事項を適宜作成の上、報告する。

報告事項については、グループ研究募集要項に準ずる。

[申込先] 〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字立沢200番地 TDK株式会社 にかほ工場北サイト

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会事務局 小幡正則

TEL (0184) 35-6543 / FAX (0184) 35-6543 又は35-6586

ホームページアドレス：<http://www.saito-kenzo.jp>

メールアドレス：[info@saito-kenzo.jp](mailto:info@saito-kenzo.jp)

受付日	令和 年 月 日	番号	No.
-----	----------	----	-----

採	否
---	---

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会  
理事長 齋藤修一 殿

## 公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 “個人研究” 助成申込書

令和 年 月 日提出

(1) 申込者身上						
(ふりがな) 申込者氏名	( ) 印	性別	年令	満	才	
勤務先名 (学校名)		職名				
勤務先所在地	〒 _____ TEL No. FAX No.					
学歴 (最終)						
職歴						
研究歴						
上記申込者の研究は、貴会の助成対象にふさわしいものと認め推薦します						
学校長氏名 _____				<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">学校長 印</td> </tr> </table>		学校長 印
学校長 印						

(2) 研究課題とその要旨

イ. 研究課題

ロ. 研究課題の要旨（動機、ねらい、目的等）

(3) 助成金の使途内訳 （具体的に）

助成申請額                      万円

(4) 具体的研究実施計画

令和 4 年度

公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 助成研究報告書 (個人研究用)

令和 年 月 日提出

研究課題：

[新規・継続]

研究期間： 令和 年 月 ～ 令和 年 月

貴会より助成を受けた上記研究の成果を報告します

所属名：

研究者氏名：

印

学校長氏名：

学校長  
印

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

理事長 齋藤 修 一 殿

# 指導者の皆様へ

秋田県教育委員会

令和4年度の「公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会研究助成」の募集に対して、クラブ活動、部活動、総合的な学習の時間の学習グループ、及び選択教科理科の研究グループなどから積極的に御応募いただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

また、公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会の支援の基に県教育研究会理科部会が毎年秋に主催している全県児童生徒理科研究発表大会において、各校のグループ又は個人が地道に行っている研究成果を発表することも、子供たちの科学への夢を膨らませ、探究心の向上を保障する機会となっております。

この機に、秋の発表に向け、春から計画的に研究活動を進め、じっくりと取り組むことができるよう支援するとともに、率先して発表会に参加して意見交換することが期待されます。

## 自由研究の進め方

### 1 テーマを見付ける

テーマはこんなところにあります。

- ①授業の中で疑問に思う ②校内外を歩く ③人（友達や家族、先生に聞く）
- ④家の外に出る ⑤テレビを見る ⑥インターネット（ホームページ）で調べる
- ⑦遠足や社会見学で不思議に思う……など。つまり、どこにでもあるということです。

子供は、「熱しやすくさめやすい」のが当たり前です。いったん選んだ以上はこれを自分の問題として強く認識し、自力で探究していこうと努力する気持ちをもたせるために、テーマを決定するまでの留意点として

- (1) 教師は、日頃から理科の授業などを通して、子供自身が日常の事象を一応疑ってみる力を身に付けさせ、自然の物事・現象の中に不思議さを感じることができるよう感性を磨いてやる。
- (2) 子供が疑ってみたことに対して、教師も同じ目線で一緒に調べていくよう心掛ける。
- (3) 子供の強い興味に合致したテーマの選定や、個に応じたテーマを設定できるよう助言する。
- (4) 研究途中の激励や探究方法の発見に協力するなどの支援よりも、テーマ決定時に「郡市理科研究発表会で発表する」あるいは「○△科学論文コンクール」に出品するなどの途中駅や終着駅の目標をもたせるようにする。

このような教師の支援があって、初めて子供は自発的に努力するようになり、また、こうして得た結果味わう成功感や充実感は、体験者だけが感得できるものであって、これが、次のステップに強い探究意欲となって現れてきます。

これまで、全国のトップクラスの評価を受けた他県の中高生の研究例として、次のようなものがあります。

- ・「砂時計をひっくり返すと砂が全部落ちるまでの時間が違うのは、なぜ？」
- ・「スパゲッティが中央で折れないわけ？」

- ・「リンゴのあくはなぜできるの？」
- ・「カタツムリの筋肉はどんなふう動く？キャタピラのように動いているのかな？」
- ・「スルメを焼くとどうして決まった方にめくれあがる？」
- ・「〇〇地方に雷が落ちやすいのはなぜ？」

よいテーマは、意外と身近で誰もが注目しそうなものであるという共通点をもっています。

## 2 研究の進め方

### (1) 研究の計画を立てる

①何を（何のために＝どんな目的で） ②いつ ③どこで ④どうやって（研究の方法）

(2) 気付いたことはノートに記録する→観察・実験のことだけでなく必要事項を全部メモする

### (3) 観察・実験をする

①順序よくやる→簡単に結果の出るものは繰り返し行う。

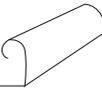
②比べるときは条件を考える→一つのことを比べるときは他の条件をすべて同じに→条件制御

③より正しく記録するために、利用できる機器をすべて利用する（カメラ、ビデオカメラ…）

## 3 研究のまとめ

### (1) まとめる手順

(例)

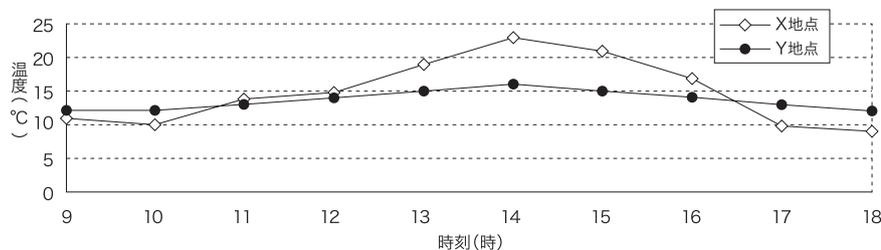
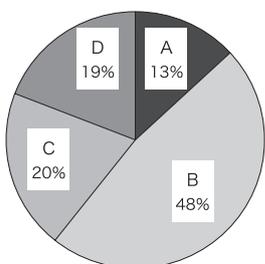
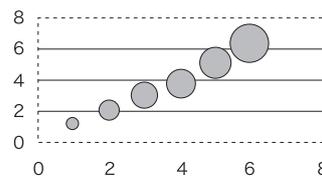
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きっかけは何なのか…生起している現象は、今まで学んだどんなことと関係があると考えたのか」</li> <li>・「気付いたこと、はっと思ったことから、どんなきまりを思い浮かべ、何と関係がありそうだったのか」</li> </ul>	<p>1 研究の動機 ○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分が何をどのように調べようとしたのか」</li> <li>・「どんなことをねらい、何をはっきりさせたかったのか」</li> </ul>	<p>3 研究のすすめ方 ○○○○○○○○○○○○</p>
<p>※調べたことが複数ある場合は、内容ごとに方法と結果を載せる</p>	<p>4 研究の方法 ○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何を調べるためにどんな方法で行ったのか」</li> </ul>	<p>5 研究の結果 ○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「結果はどうなったのか→グラフや表を使って…」</li> <li>※調べたことを全部表す必要はない→6につながるもののみ示す</li> </ul>	<p>6 研究のまとめ (わかったこと) ○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究の結果から何が分かったのか」</li> <li>※分かったことは、読み手に伝わるよう分かりやすく簡潔に表す</li> </ul>	<p>7 反省と今後の課題</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この部分がまだよく分からない」</li> <li>・「こここのところをもっと調べたい」</li> </ul>	

(2) まとめ方

- ①ノートやレポート用紙にまとめる（図表はのりで貼る）
- ②原稿用紙にまとめる（子供自身がワープロソフトで打つ）
- ③アルバムを使ってまとめる→分かりやすい
- ④模造紙にまとめる→研究発表会における一般的な方法→OHP
- ⑤ビデオ（物体の動きや動物の行動などコマ送りするのも一手段）
- ⑥パソコンのプレゼンテーションツールでまとめる→それだけで分かりやすいが、音声を吹き込んだものを作ると「発表」そのものを記録として残すことが可能になる。

(3) 図表や資料はもっとも適切なものを

- ①割合だったら、円グラフや帯グラフ
- ②時間を追っての変化だったら、折れ線グラフ
- ③二つの比較だったら棒グラフ…など適切なものを使う

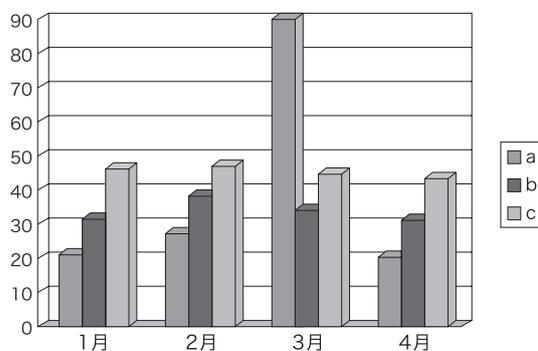


最大の秘訣は→迫力のある決定的な写真



いなずまの様子

インパクトのある分かりやすい図表



三つの事象を比較したグラフ

# 令和元年度 研究助成金助成校一覧

齋藤憲三・山崎貞一奨励賞受賞校 ●金賞 ◎銀賞 ●銅賞

※平成28年度までにあった特別賞はなくなりました

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
小 学 校	1	◎	大館市立釈迦内小学校 ひまわり研究部	ひまわりの種の搾りかすの活用について	50,000円
	2	●	大仙市立西仙北小学校 レインボーもろこし	ガラスジェムコーンと色に関する研究	50,000円
	3		にかほ市立平沢小学校 サイエンスクラブ流星観測班	流星のひみつをさぐる2	50,000円
	4	◎	にかほ市立院内小学校 院内サイエンスクラブ	ふしぎふしぎ ダンゴムシ	50,000円
	5		にかほ市立金浦小学校 科学クラブ	観賞魚を美しくじょうぶに育てるには？	50,000円
	6		にかほ市立象潟小学校 サイエンスクラブ	学校の近くの川になぜサケがのぼってくるのか	30,000円
中 学 校	1		県立秋田南高等学校中等部 自然科学部マイクロプラスチック研究班	秋田県内のマイクロプラスチックと プラスチックの劣化の研究	100,000円
	2		県立秋田南高等学校中等部 自然科学部植物研究班	光合成における植物の器官とそのはたらき	90,000円
	3	●	由利本荘市立大内中学校 科学部エビちゃんず	密閉容器から出る音の考察 ～ク音とエビフライ音の原因追究～	100,000円
	4	●	由利本荘市立大内中学校 科学部サツキブラッサムズ	おしべが花卉に変わるメカニズム ～サツキ紫龍の舞～	100,000円
	5		由利本荘市立本荘東中学校 科学部光の色と植物の成長の関係調査班	光の色と植物の成長にはどのような関係が あるのだろう	100,000円
	6		由利本荘市立西目中学校 納豆チーム	納豆菌の可能性を探る	100,000円
	7	●	由利本荘市立西目中学校 科学部トリガー班	結晶化へのトリガー ～酢酸ナトリウム水溶液と振動との関係～	100,000円
	8	●	大仙市立西仙北中学校 生活文化部科学班	鳥海山が見えると、本当に雨がふるのか？ Part II	100,000円
	9		大仙市立大曲中学校 科学部	有害物質の除去方法 Part. II	100,000円
	10		美郷町立美郷中学校 総合科学部2年チーム	モノアラガイは水をどのようにきれいにするのか	100,000円
	11		美郷町立美郷中学校 総合科学部1・3年チーム	トミヨ属雄物型の研究 Part.8	100,000円
	12		横手市立横手明峰中学校 科学部空気砲班	煙のふしぎ ～空気砲の輪の秘密を探れ！	100,000円
	13		横手市立横手明峰中学校 科学部ワイパー班	拭き取りの研究 ～こぼれた液体とおさらばするために!!	100,000円
	14		横手市立横手北中学校 科学部生物班	学校の生物の生態系を調べよう	100,000円
	15		横手市立横手北中学校 科学部食物班	食品を長持ちさせる方法について	100,000円
	16		横手市立横手南中学校 科学部武田薫	空気砲の射程とメカニズム	100,000円
	17		横手市立横手南中学校 科学部鈴木汰一	応援で 体をそらす 理由とは	60,000円
	18		横手市立十文字中学校 科学部	和紙の特徴と魅力を探れ パート II ～十文字和紙を守るために～	100,000円
	19		県立横手清陵学院中学校 自然科学部食品班	美味しい乾燥食品を作るには2 ～うま味成分の違いを比べる	100,000円

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
中 学 校	20	◎	県立横手清陵学院中学校 自然科学部たまご班	たまごの構造 ～カラザはどのようにして卵黄を固定しているのか	100,000円
	21		湯沢市立湯沢南中学校 自然科学部リニアモーター班	浮遊型リニアモーターカー	100,000円
	22		湯沢市立湯沢南中学校 自然科学部緑のカーテン班	緑のカーテン ～蒸散量と冷却効果の関係～	100,000円
高 校	1		県立大館鳳鳴高等学校 生物部	ニホンザリガニの新生息地発見に向けた調査 及び市民の関心を高める取組	70,000円
	2		県立大館鳳鳴高等学校 化学部	抗菌活性物質の化学 ～乳酸菌に対する抗菌作用物質とその化学構造	130,000円
	3	●	県立大館国際情報学院高等学校 科学部	地域資源を活用した染色の化学Ⅱ	115,000円
	4		県立能代高等学校 2年理科科課題研究生物班	ギバサ(アカモク)で地球を救う〔緑地化大作戦〕	130,000円
	5		県立秋田北鷹高等学校 科学部ロケット班	モデルロケットの設計と研究	130,000円
	6	●	県立男鹿海洋高等学校 課題研究波力発電班	ネオジム磁石を用いた波力発電Ⅱ	130,000円
	7	◎	県立秋田中央高等学校 躍進探究部物理班	DVDを使った可視光線分光器の作成とその応用 ～感覚的な色とスペクトルの関係について～	130,000円
	8		県立秋田中央高等学校 躍進探究部生物班	河跡湖における水生植物・魚類の生息状況と その保全に関する研究	130,000円
	9		県立秋田高等学校 生物部・緑茶班	緑茶成分と抗生物質の抗菌効果に関する研究	130,000円
	10		県立秋田高等学校 理科科課題研究・まいたけ鑑定団	キノコのDNA鑑定手法の確立 ～秋田県産マイタケの産地偽装問題の解決を目指して～	130,000円
	11		県立金足農業高等学校 科学部スムシ対策班	スムシの忌避剤を探る	130,000円
	12		県立新屋高等学校 理科研究部	秋田市近郊におけるセキレイ類の生態と分布	130,000円
	13	◎	聖霊女子短期大学付属高等学校 ビスマス班	陽極酸化法で酸化したビスマス結晶の色の 謎に迫れ	130,000円
	14		聖霊女子短期大学付属高等学校 透明標本班	透明標本作成におけるタンパク質変性について	130,000円
	15	◎	県立秋田南高等学校 自然科学部	秋田市猿田川におけるカワセミの繁殖生態に ついての研究	130,000円
	16		県立秋田明德館高等学校 スペース・イオ10科学クラブロボット制御班	いろいろなセンサーを使ってロボットの 自動走行を研究する	100,000円
	17		県立本荘高等学校 科学部化学班	鉄錆の発生における因子と反応性 および反応機構の検討	130,000円
	18	●	県立大曲農業高等学校 生物工学部	「ソルトブリッジを用いた電気分解のメカニズム解明」	130,000円
	19		県立平成高等学校 保健委員会緑班	夏季における教室の温熱環境の快適性に関する 研究～グリーンカーテン設置の影響効果Ⅱ～	130,000円
	20		県立横手高等学校 生物研究部	バイオマスエタノールに関する研究 ～次世代の新しいエネルギー～	130,000円
	21		県立湯沢翔北高等学校 課題研究ロボット班	段差を乗り越える機構をマイコンによって制御し、機体 全体の動作を無線でコントロールできるロボットの製作	130,000円
	22		県立湯沢翔北高等学校 課題研究制御班	ドローンが飛行する揚力の仕組みと、飛行の 制御について	130,000円

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
個 人	1		高橋 正義 県立能代支援学校	「重複障害時の“夢”を支援機器を活用して 拓(ひら)く」	80,000円
	2		竹内 守 秋田市立旭南小学校	秋田露(旭南路)の教材化	80,000円
	3		瀬々 将吏 県立横手清陵学院高等学校	ブラックホールを題材とした理科授業の開発 ～東北地区の教育資源を活用して～	80,000円
	4		小林 国元 県立湯沢翔北高等学校	フライス盤加工による変形の研究	80,000円
	5		渡邊 義典 県立湯沢翔北高等学校	汎用旋盤による切削加工技術(テーパ加工)の 研究	80,000円
	6		福司 功治 県立男鹿海洋高等学校	プラナリアの視物質発現を通じた 遺伝子教育教材を研究する	80,000円
合 計					5,665,000円

## 令和2年度 研究助成金助成校一覧

齋藤憲三・山崎貞一奨励賞受賞校 ●金賞 ◎銀賞 ●銅賞

※平成28年度までにあった特別賞はなくなりました

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
小 学 校	1		大仙市立清水小学校 レインボーもろこし	ガラスジェムコーンと色に関する研究Ⅱ	50,000円
	2	●	にかほ市立平沢小学校 サイエンスクラブ流星観測班	流星のひみつをさぐる3	50,000円
	3	◎	にかほ市立院内小学校 院内小サイエンスクラブ	カメムシはなぜ嫌われる？	30,000円
	4	●	にかほ市立金浦小学校 科学クラブ	コケの不思議を探ろう	50,000円
	5		にかほ市立象潟小学校 サイエンスクラブ	ペットボトルの保冷効果のひみつ	50,000円
中 学 校	1		県立秋田南高等学校中部 自然科学部アリ研究班	アリの餌と巣の構造による生態変化の関係	100,000円
	2		県立秋田南高等学校中部 自然科学部猿田川研究班	猿田川の研究	100,000円
	3	●	由利本荘市立大内中学校 科学部	おしべや花卉の数はなぜ変化するか ～サツキ紫龍の舞～	100,000円
	4		由利本荘市立本荘南中学校 紙鉄砲班	Hello, paper gun ! ～紙鉄砲の音の謎に迫る～	100,000円
	5		由利本荘市立本荘南中学校 メレンゲ班	メレンゲに秘められし力	100,000円
	6		由利本荘市立本荘東中学校 科学部飛行機の翼の形状と揚力の関係調査班	飛行機の翼の形と揚力にはどのような関係があるのだろう	100,000円
	7	●	由利本荘市立西目中学校 科学部カイロ研究班	結晶化へのトリガー Part2 ～酢酸ナトリウム水溶液と衝撃の可能性～	100,000円
	8		由利本荘市立西目中学校 科学部納豆研究班	納豆菌の可能性を探る Part2	100,000円
	9		にかほ市立仁賀保中学校 理科部	トマトが育ちやすいのはどのような環境か？	100,000円
	10		にかほ市立象潟中学校 理科同好会	チョーク粉の飛ばない黒板消しの秘密を探る ～チョーク粉の飛ばない黒板消しの製作～	100,000円
	11	◎	大仙市立西仙北中学校 生活文化部科学班	鳥海山が見えると、本当に雨がふるのか？ PartIII	100,000円
	12		大仙市立大曲中学校 科学部A1班	化学電池の研究	40,000円
	13		大仙市立大曲中学校 科学部A2班	除湿剤の研究 ～効率よく湿気を吸収する除湿剤を作成するには～	60,000円
	14		美郷町立美郷中学校 総合科学部3年	炎についての研究	100,000円
	15		横手市立横手明峰中学校 科学部	消しゴムの研究 ～僕らの学習必需品「消しゴム」をより使いやすくするために～	100,000円
	16	●	横手市立横手北中学校 科学部	カルメ焼きを科学する ～誰でも確実に膨らませる方法～	100,000円
	17		横手市立横手南中学校 科学部運動グループ	空気砲の射程とメカニズム2(継続研究)	100,000円
	18		横手市立横手南中学校 科学部音グループ	体育館に響く拍手のメカニズム	100,000円

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研究課題	助成金
中学校	19		県立横手清陵学院中学校 自然科学部ヤゴ班	トンボが生息できる環境を整えるには ～学校周辺のヤゴの調査から～	76,000円
	20		県立横手清陵学院中学校 自然科学部エッセンシャルオイル班	身近な植物からエッセンシャルオイルを精製しよう	100,000円
	21	◎	湯沢市立湯沢南中学校 自然科学部	生物がつくる構造の利点とその活用	100,000円
高校	1	◎	県立大館鳳鳴高等学校 生物部	ニホンザリガニ環境DNA分析のための DNA増幅法の検討	130,000円
	2		県立大館鳳鳴高等学校 化学部	ナツハゼの化学成分 ～地域特産物の高度利用について	130,000円
	3	●	県立大館国際情報学院高等学校 科学部	地域資源を活用した染色の化学Ⅲ	130,000円
	4		県立能代高等学校 2年理数科課題研究生物班塩害対策クラブ	塩害防止剤の研究 [ギバサ (アカモク) で]	130,000円
	5		県立男鹿海洋高等学校 課題研究波力発電班	ネオジム磁石を用いた波力発電Ⅲ	130,000円
	6		県立男鹿海洋高等学校 課題研究マイクロプラスチック調査班	男鹿周辺海域におけるマイクロプラスチックの現状と 魚類に与える影響	130,000円
	7	◎	県立秋田高等学校 生物部緑茶班	緑茶と薬の飲み合わせについて考える	130,000円
	8		県立秋田高等学校 生物部・キノコのDNA鑑定団	キノコのDNA鑑定手法の確立②	130,000円
	9		県立金足農業高等学校 科学部ミツバチ農業調査班	日本ミツバチ (Apis.cerana) における 残留農薬に関する研究	130,000円
	10		県立新屋高等学校 理科研究部エチレン班	エチレンガスが果物に及ぼす効果とその比較	130,000円
	11		県立新屋高等学校 理科研究部カメムシ班	カメムシの生態調査	130,000円
	12		聖霊女子短期大学附属高等学校 科学部ビスマス班	ビスマスを用いた低融点合金を作り出せ!	130,000円
	13	●	県立秋田南高等学校 自然科学部鳥類相調査班	秋田市猿田川における鳥類相の変動についての研究 ～野外調査の解析と合理化～	130,000円
	14		県立秋田南高等学校 自然科学部水質調査班	秋田市猿田川における水質と指標生物についての研究	130,000円
	15		県立秋田明德館高等学校 スペース・イ10科学クラブロボット制御班	ドローンのプロペラを3Dプリンタで製作し、 その形状と飛行の関係を研究する	100,000円
	16	●	県立秋田中央高等学校 躍進探究部物理班	樹木はどのようにして水を吸い上げるのか ～柳を使った物理的アプローチ～	130,000円
	17		県立秋田中央高等学校 躍進探究部化学班	銀粉末は調整法でどうかわるのか	130,000円
	18		県立本荘高等学校 科学部化学班	電解質水溶液による鉄錆の発生についての研究	130,000円
	19		県立由利高等学校 理数科2年課題研究化学班	良い香りをもたらす新しい香料の合成 ～秋田杉などの植物を活用して～	130,000円
	20		県立大曲農業高等学校 3年園芸科学科環境班	「東洋のガラパゴス」の生態系を外来樹から守れ! ～小笠原諸島の自生担子菌を用いた駆除外来樹の有効活用～	130,000円
	21		県立平成高等学校 保健委員会	10秒間の短時間手洗いの効果検証	130,000円

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
高 校	22		県立横手高等学校 生物研究部	横手高校周辺の生物の生態調査	130,000円
	23		県立横手清陵学院高等学校 飛沫研究班	唾液の物理的な性質に関する研究	130,000円
	24		県立横手清陵学院高等学校 エアリック班	エアリックに関する研究	130,000円
	25	●	県立湯沢翔北高等学校 工業クラブ制御班	自作ドローンを使用して、 学校近隣の気象(温度変化)を調べる。	130,000円
個 人	1		樋渡 拓也 県立大館桂桜高等学校	OKMB (大館桂桜micro:bit) プロジェクトの推進	80,000円
	2		高橋 健一 男鹿市立船越小学校	主体的・対話的で深い学びを実現する小学校理科授業の改善に関する研究～実社会・実生活との関連を重視した授業づくりを通じて～	80,000円
	3		福司 功治 県立男鹿海洋高等学校	ウミホタルルシフェラーゼの多様性を RT-PCRで確かめる	80,000円
	4		高橋 正義 県立能代支援学校	脳性まひのある生徒の実態に応じた学びを支援する入出力支援装置とソフトウェアの活用に関する実践研究	80,000円
	5		大沼 克彦 県立大曲農業高等学校	オンライン授業、遠隔授業に必要な実験動画集の作成と活用法について	80,000円
	6		須田 宏 県立横手清陵学院高等学校	テキストマイニングによる生徒論文の分析とデータベース化に関する基礎研究	80,000円
	7		小林 国元 県立湯沢翔北高等学校	フライス盤加工による変形の研究②	80,000円
	8		渡邊 義典 県立湯沢翔北高等学校	手仕上げによる平面加工の研究	80,000円
合 計					6,066,000円

令和3年度 研究助成金助成校一覧

齋藤憲三・山崎貞一奨励賞受賞校 ●金賞 ◎銀賞 ●銅賞

※平成28年度までにあった特別賞はなくなりました

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
小 学 校	1		秋田市立旭南小学校 飼育・栽培委員会	元気にチャレンジ1 「花をよりきれいに咲かせよう！」	50,000円
	2		秋田市立旭南小学校 花を愛する会	元気にチャレンジ2 「切った花を生かそう！」	50,000円
	3	●	にかほ市立平沢小学校 サイエンスクラブ流星観測班	流星のひみつをさぐる4	50,000円
	4	◎	にかほ市立院内小学校 サイエンスクラブ	寒沢川水系～水のきれいさと生きものの関係	50,000円
	5	●	にかほ市立金浦小学校 科学クラブ	コケの不思議を探ろう2	30,000円
	6		にかほ市立象潟小学校 サイエンスクラブ	卵が固まるひみつ	50,000円
中 学 校	1	●	由利本荘市立大内中学校 科学部物理研究グループ	「良寛は、なぜ腰をかがめながら手まりをついたのだろうか」～手まりの弾性～	100,000円
	2		由利本荘市立本荘南中学校 南中科学部水滴班	ポタン、ポタ、ピチャの謎～落ちてくる液体と受け止める液体が作る様々な規則性を探る～	100,000円
	3	◎	由利本荘市立本荘南中学校 南中科学部松葉班	松の葉相撲 勝利への道	100,000円
	4		由利本荘市立本荘東中学校 科学部植物の成長と二酸化炭素濃度との関係調査班	植物の成長と空気中の二酸化炭素濃度の割合について	100,000円
	5		由利本荘市立西目中学校 トリガーチーム	結晶化へのトリガー	100,000円
	6		由利本荘市立西目中学校 咀嚼音チーム	咀嚼音	100,000円
	7		にかほ市立仁賀保中学校 理科部	ミニトマトの成長と土壌の固さには関連があるのだろうか	100,000円
	8	●	にかほ市立象潟中学校 科学部スポンジーズ	スポンジの吸水の秘密を探る	100,000円
	9		にかほ市立象潟中学校 科学部たにていー	水温の変化によるネオンテトラの行動の秘密を探る	100,000円
	10		大仙市立大曲中学校 科学部	水質改善～玉川に学ぶ～	100,000円
	11		美郷町立美郷中学校 科学部3年	トミヨ属雄物型の研究 PART10	100,000円
	12	◎	横手市立横手明峰中学校 科学部	横手市西部はなぜスイカ・ブドウ・ホップの名産地になったのか～横手盆地平野部の微地形分布との関連～	100,000円
	13		横手市立横手北中学校 科学部	カルメ焼きを科学する Part.2 ～カルメ焼きを膨らませる黄金比率とは～	100,000円
	14		横手市立横手南中学校 科学部	雑巾がけの極意 ～きれいな雑巾で残さず汚れを拭き取るには～	100,000円
	15		横手市立十文字中学校 科学部	電源不要！エコスピーカーの性能を追究せよ！	100,000円
	16		横手市立増田中学校 剣道部	快適な練習環境を求めて ～不快なカメムシを退治するには～	100,000円
	17	●	湯沢市立湯沢南中学校 自然科学部	生物がつくる構造の利点とその活用 パート2	100,000円
高 校	1		秋田県立大館鳳鳴高等学校 生物部	環境DNAを用いたPCR法によるニホンザリガニの生息地の調査	130,000円
	2	◎	秋田県立大館鳳鳴高等学校 化学部	貝殻由来炭酸カルシウムの特性評価 —pH調整剤および吸着剤としての応用	130,000円

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金	
高 校	3		秋田県立十和田高等学校 「かづの学」(クマの食害調査班)	ツキノワグマによる食害に対する 忌避効果に関する基礎研究	130,000円	
	4		秋田県立能代高等学校 2年理数科物理班	衛星データの取得とその応用について	130,000円	
	5		秋田県立能代高等学校 2年理数科化学班	災害時におけるチンダル現象を利用した より明るい照明の確保についての研究	130,000円	
	6		秋田県立男鹿海洋高等学校 課題研究波力発電班	ネオジム磁石を利用した波力発電 ～活用への道～	130,000円	
	7	◎	秋田県立秋田高等学校 生物部緑茶班	緑茶成分物質による抗生物質の抗菌効果への影響	130,000円	
	8		秋田県立秋田高等学校 生物部遺伝子班	遺伝子導入の効率の向上	130,000円	
	9	●	秋田県立秋田中央高等学校 躍進探究部生物班	なぜミズヒキの斑は生じるのか	130,000円	
	10		秋田県立秋田中央高等学校 躍進探究部化学班	過冷却で下がる温度について	130,000円	
	11		秋田県立新屋高等学校 理科研究部	校内敷地内及び新屋地域における カメムシの生態調査	130,000円	
	12		秋田令和高等学校 自然科学部	千秋公園における脊椎動物、 節足動物を主とした生物相調査	130,000円	
	13	●	聖霊女子短期大学附属高等学校 科学部人工宝石班	人工宝石を作ってみよう！	130,000円	
	14		秋田県立秋田南高等学校 自然科学部鳥類・植生調査班	猿田川における植生と鳥類相の 変化についての研究	130,000円	
	15	◎	秋田県立秋田南高等学校 自然科学部マイクロプラスチック調査班	猿田川の土壌や水生動物に含まれる マイクロプラスチックの研究	130,000円	
	16		秋田県立本荘高等学校 科学部	身近な食品や植物の抗菌作用と その応用についての研究	130,000円	
	17		秋田県立由利高等学校 理数科2年課題研究化学班	身近な洗剤や植物などの消臭作用についての研究	130,000円	
	18		秋田県立横手清陵学院高等学校 メカトロ部	ロボット用センサーの利用方法と応用利用の研究	130,000円	
	19		秋田県立横手高等学校 生物研究部	トンボの頭をかしげる行動について	130,000円	
	20	◎	秋田県立湯沢翔北高等学校 工業クラブ制御班	ドローンを使って害鳥(害虫)から身を守る研究	130,000円	
	個 人	1		阿部 大輔 秋田県立新屋高等学校	「秋田×SDGs」をテーマとした教材研究	80,000円
		2		高橋 健一 男鹿市立船越小学校	「空気」に対する見方・考え方を豊かにする小学校理科の授業改善に 関する研究～「空気」に着目したカリキュラム・マネジメントを通して～	80,000円
3			東海林 拓郎 秋田県立能代高等学校	根箱を活用した「生物」教材の開発 ～窒素循環と微生物活性の視点から～	80,000円	
4			百木 慶郎 秋田県立横手城南高等学校	地表面の熱収支と地下温度分布の関係について	80,000円	
5			小林 国元 秋田県立湯沢翔北高等学校	フライス盤加工による変形の研究③	80,000円	
6			渡邊 義典 秋田県立湯沢翔北高等学校	フライス盤加工による仕上げ面の研究	80,000円	
合 計					5,060,000円	



[別表] 研究助成状況①(昭和47年度～平成15年度)

公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

区 分	小 学 校				中 学 校				高 等 学 校				特 別 支 援 学 校			教 職 員		団 体 ・ 他				合計金額	助成校数	助成件数	参加人員
	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	金 額	参加人員	人員	金 額	数	金 額	数	金 額				
昭和47年度	3	3	900	21	3	3	1,200	36	1	1	500	8										2,600	7	7	65
昭和48年度	9	9	900	86	6	6	1,200	78	2	2	500	26										2,600	17	17	190
昭和49年度	8	8	800	102	6	6	1,200	86	3	3	750	46				7	550	1	100			3,400	17	25	241
昭和50年度	8	8	800	105	8	8	1,200	85	2	2	500	50				8	700					3,200	18	26	248
昭和51年度	6	6	600	106	6	6	900	76	2	2	500	36				11	1,000					3,000	14	25	229
昭和52年度	9	9	900	112	7	7	1,050	91	2	2	500	18				8	900					3,350	18	26	229
昭和53年度	4	4	400	109	5	5	750	79	2	2	500	43				8	850					2,500	11	19	239
昭和54年度	10	10	1,000	139	10	10	1,500	134	3	3	750	38				5	600					3,850	23	28	316
昭和55年度	16	16	1,600	179	11	11	1,650	152	1	1	250	34				5	700					4,200	28	33	370
昭和56年度	19	19	1,900	248	16	16	2,400	337	3	3	750	52				5	500	1	1,000			6,550	38	44	642
昭和57年度	11	11	1,100	139	10	10	1,500	94	2	2	500	51				7	900	1	300			4,300	23	31	291
昭和58年度	16	16	1,600	185	10	10	1,500	177	2	2	500	39				7	1,000	2	730			5,330	28	37	408
昭和59年度	18	18	1,800	255	13	13	1,950	185	3	3	700	46				5	800	4	1,050			6,300	34	43	491
昭和60年度	20	20	2,000	353	17	17	2,550	185	2	2	500	39				5	700					5,750	39	44	582
昭和61年度	19	19	1,900	221	15	15	2,250	207	3	3	750	60				5	750	1	1,000			6,650	37	43	493
昭和62年度	18	18	1,800	367	10	10	1,500	95	5	5	1,250	91				6	900					5,450	33	39	559
昭和63年度	18	18	1,800	271	10	10	1,500	100	3	3	750	59				3	600	3	900	特別1	2,000	7,550	31	38	433
平成元年度	18	18	1,800	240	9	9	1,275	89	3	3	750	36				2	200	1	500	特別1	2,000	6,525	30	34	367
平成2年度	17	17	1,700	273	13	13	1,950	150	2	2	400	21				3	550			特別1	2,000	6,600	32	36	447
平成3年度	23	23	2,300	358	7	7	1,050	78	2	2	500	42				4	800			特別1	2,000	6,650	32	37	482
平成4年度	24	24	2,400	324	23	23	3,400	323	9	9	2,250	65	2	350	15	2	450			大学1	4,000	12,850	58	61	729
平成5年度	14	14	1,400	188	12	12	1,800	127	4	4	1,000	65	1	200	4	2	500			大学1	4,000	8,900	31	34	386
平成6年度	25	25	2,500	295	17	17	2,550	202	7	7	1,750	117	2	250	21	1	200			大学1	4,000	11,250	51	53	636
平成7年度	19	19	1,900	245	13	13	1,950	179	7	7	1,750	89				1	200			大学1	4,000	9,800	39	41	514
平成8年度	21	21	2,100	277	15	15	2,250	215	8	8	1,840	99				1	200			大学1	4,000	10,390	44	46	592
平成9年度	20	20	2,000	208	13	13	1,950	100	7	7	1,610	68	2	300	35					大学1	4,000	9,860	42	43	411
平成10年度	32	32	3,200	411	14	14	2,100	192	4	4	920	45	1	150	34					大学1	4,000	10,370	51	52	682
平成11年度	19	19	1,900	284	13	13	1,950	127	2	2	460	21								大学1	4,000	8,310	34	35	432
平成12年度	12	12	1,130	161	14	14	2,100	223	5	5	1,150	39	2	300	42					大学2	5,000	9,680	33	35	465
平成13年度	18	18	1,790	306	15	15	2,230	156	6	6	1,380	103								大学2	4,800	10,200	39	41	565
平成14年度	13	13	1,300	210	17	17	2,550	231	5	5	1,150	38				1	200			大学2	2,500	7,700	35	38	480
平成15年度	11	11	1,060	132	18	18	2,620	193	6	6	1,210	43				1	200					5,090	35	36	369

[別表] 研究助成状況②(平成16年度～令和3年度)

区 分	小 学 校				中 学 校				高 等 学 校				特 別 支 援 学 校			教 職 員		団 体 ・ 他				合計金額	助成校数	助成件数	参加人員
	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	金 額	参加人員	人員	金 額	数	金 額	数	金 額				
平成16年度	校 11	件 11	千円 1,060	人 127	校 15	件 15	千円 2,400	人 151	校 5	件 5	千円 1,200	人 38	校	千円	人	人 1	千円 200		千円		千円	千円 4,860	31	32	317
平成17年度	11	11	1,180	138	14	14	2,160	199	4	4	990	40				1	200					4,530	29	30	378
平成18年度	12	12	1,270	135	13	13	1,950	149	7	7	1,690	42										4,910	32	32	326
平成19年度	11	11	1,110	262	13	13	2,100	131	7	7	1,700	42				1	200					5,110	31	32	436
平成20年度	15	15	1,570	322	11	11	1,790	131	8	8	2,000	63				4	800					6,160	34	38	520
平成21年度	11	11	1,130	297	12	12	1,970	112	9	13	3,150	159				5	800					7,050	32	41	573
平成22年度	13	14	1,330	389	14	15	2,400	138	12	18	3,900	158				1	100					7,730	39	48	686
平成23年度	10	11	1,010	135	14	15	2,330	119	13	22	4,370	198				1	200					7,910	37	49	453
平成24年度	9	9	910	95	13	13	2,090	140	17	25	5,820	282				1	200					9,020	39	48	518
平成25年度	8	8	820	96	13	15	2,560	147	16	27	6,480	301				3	600					10,460	37	53	547
平成26年度	11	11	1,040	163	16	17	2,500	176	20	33	6,590	359				7	700					10,830	47	68	705
平成27年度	10	10	890	116	13	15	2,200	137	18	30	6,000	278				6	850					9,940	41	61	537
平成28年度	10	10	750	123	11	13	1,560	145	21	34	4,570	282				7	520					7,400	42	64	557
平成29年度	9	9	4,300	78	12	16	1,560	151	21	31	3,940	209				8	530					6,460	42	64	446
平成30年度	7	7	350	62	13	18	1,800	169	21	29	3,650	231				4	320					6,120	42	63	466
令和元年度	6	6	280	74	13	22	2,150	157	17	22	2,755	174				6	480					5,665	36	56	411
令和2年度	5	5	230	53	15	21	1,976	147	18	25	3,220	205				8	640					6,066	38	59	413
令和3年度	5	6	280	59	14	17	1,700	164	15	20	2,600	158				6	480					5,060	34	49	387
合 計	672	675	65,920	9,634	615	651	94,721	7,445	367	478	93,195	4,846	10	1,550	151	183	22,770	14	5,580	18	52,300	336,036	1,664	2,029	22,259